TUNZA International Children and Youth Conference 2011　報告書

リオ+20 NGO 地球サミット 連絡会

エコリーグ/

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム 学生自主組織「はしっくす」

旭川医科大学　佐藤　裕基

TUNZA INTERNATIONAL CHILDREN AND YOUTH CONFERENCE 2011

Children and Youth on the Road o Rio +20
Re-shaping Our Future Through Green Economy and Sustainable Lifestyles

【目次】

1. プログラム
2. 概要報告（プレナリー・セッション、ワークショップを除く）
2-1.1 日目
2-1-1.開会式
2-1-2.パネルディスカッション ″Youth in the Green Economy: Reshaping Lives and Livelihood″
2-1-3.国連子供環境ポスター原画コンテスト入賞者表彰式と 20 周年記念式典
2-1-4.Motivetional Session
2-2.2 日目
2-2-1.地域ごとのディスカッション（Regional Discussions）
2-2-2.ホテルでのグループ・ディスカッション
2-3.3 日目
2-3-1.グループ・ディスカッション
2-3-2.全体での会議（”Bandung Outcome for Rio+20”）
2-4.4 日目
2-4-1.エクスカーション
2-4-2.エクスカーション後のディスカッション（宣言文作成に向けて）
2-5.5 日目
2-5-1.Sport Center での伝統ゲーム体験、Tamana Sari Street での壁画体験
2-5-2.閉会式
3. ワークショップ
3-1.Workshop①（1 日目）
3-2.Workshop②（2 日目）
3-3.Workshop③（3 日目）
3-4.Workshop④（4 日目）
3-5.Workshop⑤（5 日目）
4. Plenary Sessions
4-1.プレナリー・セッション①
4-2.プレナリー・セッション②
4-3.プレナリー・セッション③
5. その他
5-1. 会場までの移動
5-2. 植林後の宣言文の修正会議
5-3. 宣言文（Bandung Dclaration）へのコミットメント
5-4. その他の人的交流
6. 報告会開催予定
7. 最後に

8. 添付資料

1. プログラム（当初予定）

【1 日目：9 月 27 日】（テーマ: Rio+20- Green Economy）

時間	内容
7:00	会場へ移動
8:00	メイン会場に着席
8:20	Diplomatic CoreとVIPの到着
8:30	Cultural performance
8:50	H. E. Prof. DR.Budiono, M. Ec氏(Vice President of Indonesia)到着
9:00	開会式
9:05	Earth Reflection
9:10	H. E. Ahmad Heryawan氏(Governor of West Java)歓迎スピーチ
9:15	H. E. Prof. Dr. Gusti Muhammed Hatta氏(Minister of the Environment of Indonesia)スピーチ"Why Indonesia decided to host the conference?"
9:20	子ども代表者より挨拶
9:25	ユース代表者より挨拶
9:30	Mr. Achim Steiner氏 (Executive Director, UNEP)スピーチ"Why young people should be at the centre of sustainable development and UNEP's commitment to engagin and involving youth in Rio+20"
9:40	TUNZA テーマ曲の演奏（Jamaica Caféによる）
9:50	H. E. Prof. DR.Budiono, M. Ec氏(Vice President of Indonesia)の開会スピーチ
10:00	Vice President of Indonesia、UNEP Executive Director、Minister of Environment、他大臣たちによる"Angklung"の演奏（開会宣言）
10:10	開会式の終了
10:15	"Jamaica Café"による演奏
10:15	休憩、Press Conference
10:45	City Forest落成記念式典
11:15	パネル ディスカッション"Youth in the Green Economy: Reshaping Lives and Livelihood" 【パネリスト】 Minister Kuntoro Mangkusubroto氏（Head of the Presidential Deliverly Unit on monitoring Development) Michael Dorsey氏（Youth '92参加者: Assistant Professor, Dartmouth College's Environmental Studies Programme) Wagaki Mwangi氏（Youth '92参加者: Media Relations Officer, UN Convention to Combat Desertification) Zonibel Woods氏（Youth '92参加者: Consultant on Gender and Development) Wilson Ang氏（Johhanesburh '02参加者: Founder/ President, Environmental Challenge Organization) Vinent Jugault氏（Senior Environment and Decent Work Specialist, ILO) 【司会】Achim Steiner氏（UNEP Executive Director)、Nick Nuttall氏（UNEP Acting Director of Communications and Spokesperson of UNEP Executive Director)
12:30	国連子供環境ポスター原画コンテスト入賞者表彰式と20周年記念式典 【司会】Nick Nuttall氏（UNEP Acting Director of Communications and Spokesperson of UNEP Executive Director) 入賞者表彰（Execytive Director, the Ministers of Environment of Indonesia and the Minister Kuntoro)および関係者スピーチ（地球環境平和財団、Bayer, Nikon)
13:00	昼食
14:00	Motivational Session
15:30	Workshop①
18:30	オープニング ディナー

【2 日目：9 月 28 日】（テーマ:Global Environmental Governance/ Sustainable Consumption）

時間	内容
8:00	会場へ移動
9:00	プレナリー セッション① ユース："Global Environmental Governanve/ Sustainable Lifestyles) 子ども："Sustainable Consumption")
12:00	昼食
13:30	Workshop②
15:00	休憩
15:30	Workshop③
17:00	地域ごとのディスカッション (Regional Discussions)
18:00	ホテルでの夕食
20:00	ホテルでのグループ ディスカッション

【3 日目：9 月 29 日】（テーマ: State of the Global Environment/ Forests）

時間	内容
8:30	会場へ移動
9:00	プレナリー セッション② ユース：State of the Global Environment/ Forests and election of the TUNZA Youth Advisory Council) 子ども：Forest)
12:00	昼食
13:30	Workshop④
15:00	休憩
15:30	Workshop⑤
17:00	グループ ディスカッション
18:00	全体での会議 （Bandung Outcome for Rio+20"：今回の会議の結果をRio+20にどのように生かすか） 【司会】Nick Nuttall氏、Member of the Youth Steering Committee
18:30	プレナリー セッション③ (バンドン宣言文"Bandung Declaration"の作成)
19:30	夕食

【4 日目：9 月 30 日】（Excursion）

時間	内容
9:00	エクスカーション
	ユース①: Geothermal- Star Energy, Kamojang Garut見学 ユース②：火山- Tangkuban Perahu ユース③ Hydro Power- Jatiluhur見学
	子ども① Boscha Observatory, Lembang 子ども②：Integrated Farming- Little Farmer 子ども③：Forest Walk and Hunt- Juanda Forest
20:00	夕食

【5 日目：10 月 1 日】（Excursion and Closing Ceremony）

時間	内容
9:00	World City Forestへ移動
10:00	Sport Centerでの伝統ゲーム体験、Tamana Sari Streetでの壁画体験
13:00	Sport Centerでの昼食
13:30	自由時間
17:00	閉会式会場へ移動
19:00	閉会式と閉会パーティー 【主催】H. E. Ahmad Heryawan氏（Governor of West Java） - Performance by regions and Indonesia

2. 概要報告（プレナリー・セッション、ワークショップを除く）

2-1.1 日目

2-1-1. 開会式

1 日目は開会式、その他のセレモニーが続いた。開会式では、インドネシア政府、UNEP 代表者、大臣の挨拶、スピーチが多数行われた。スピーチでは、なぜインドネシア政府と UNEP がこの TUNZA を開催するに至ったか、また、ユースや子供たちにこの会議で期待することが述べられた。特に Rio+20 を意識したスピーチもあり、最近になって発展著しいアジア地域の中で、Green Economy や環境、貧困などの問題について広く議論する TUNZA に対して、またこの会議に参加する意識の高い若者に対する期待の念が述べられていた。これに対し、参加者代表として、子ども、ユースそれぞれの参加者 1 名ずつが、壇上で挨拶した。地球の未来が、自分たちの未来とほぼイコールの存在であること、そしてそれ故に我々にとって、TUNZA は非常に大きな意義を持つことが述べられ、本会議に対する意欲を表していた。また、スピーチの他に、インドネシアの伝統芸能や、インドネシアのアカペラグループ“Jamaica Café”による歌の披露などが行われた。

↑各国参加者との記念撮影

2-1-2. パネル・ディスカッション

←インドネシア伝統芸能の披露

"Youth in the Green Economy: Reshaping Lives and Livelihood"

開会式に引き続いてパネル・ディスカッションが行われた。パネリストは主に、過去の地球サミットなどの参加者から成り、若者のエンパワーメントについて話し合われた。これまでの TUNZA や地球環境サミットで、どのように若者が活躍してきたか、あるいは会議の流れのなかでどのような役割を果たしたのかが紹介された後、今後 Rio+20 に向けて、若者が果たすべき役割についてディスカッションした。地球の人口が 70 億人を突破しようとしている現在、その増加率はますます上昇しており、それにともなって、きがや貧困の問題はますます深刻化する懸念があることが紹介された。参加者からの意見としては、そのような問題がこの 20 年の間に、より一層深刻化したことが指摘された。また、特に情報化社会の現代にあっては、モノ・ヒト・情報の流れが一層加速し、それは我々若者にとっては、有利な方向に活用されうること、そして現在では、例え地球の裏側であっても双方向的なやりとりが可能な社会となりつつあり、「地球レベル」での取り組みが一層加速されるべきであるということが話しあわれた。

↑会場の様子

↑パネル・ディスカッションの様子

2-1-3. 国連子供環境ポスター原画コンテスト入賞者表彰式と 20 周年記念式典

国連子供環境ポスター原画コンテストの入賞者に対する表彰が行われた。このコンテストは 1991 年から、国連環境計画(UNEP)、バイエル、株式会社ニコンの共催で毎年実施され、毎回世界各国から１万点近い作品がよせられている。各地域ごとのグランプリ、全体のグランプリ・準グランプリなどの子供たちの表彰が行われた。（日本からは橋本絵里奈さん（本会議の子供参加者）が受賞）

2-1-4. Motivational Session

Motivational Session は、都合により Workshop①の前に移された。今回、都合により参加できなかったアフリカの子供参加者と SKYPE（ビデオカメラあり）でつなぎ、会場とディスカッションを行なった。また、カナダの女優 Sara Canning による TUNZA 参加者に向けたメッセージなども紹介された。

Ms. Sara Canning からのビデオメッセージ→

2-2.2日目

2-2-1. 地域ごとのディスカッション（Regional Discussions）

地域ごとのディスカッションでは、日本は、アジア・太平洋地域（Asia- Pacific Region）に所属した。今回の会議の中で最も大きい集団である。集団が大きいため、幾つかのブロックに区切ってディスカッションを行った。日本は、日本-中国-韓国-モンゴルの参加者からなるグループの中でディスカッションを行なった。この４カ国は NEAYEN を構成している４カ国である。今回の TUNZA の参加者では、NEAYEN の会議が定期的に行われていることを知らない参加者もおり、NEAYEN のネットワークをより強固なものにしていくことを確認した。また、その中で、各国が取り組んでいる草の根レベルの取り組みをより一層活性化していくことで合意した。特に環境活動でいくつかの advantage のある日本が、NEAYEN のなかで主導的役割を果たすことが期待されていると感じた。

↑Regional Discussions の様子（日中韓蒙グループ）

2-2-2. ホテルでのグループ・ディスカッション

ホテルに帰着後、夕食を挟んで、宣言文(Bandung Declaration)の作成に向けたディスカッションが行われた。本ディスカッションでは、事前に案として提出されていた宣言文、および公募していたパブリック・コメントを受けた修正案が表示され、さらにそれに対してディスカッションが行われた。

修正案は、比較的多くの意見を受け入れたものだったが、やや冗長な印象もあり、さらなる修正が必要とされた。特に、”Section 2: What We Are Going to Do”が最も重要であるという意見が相次ぎ、具体的内容もさることながら、セクションの長さの配分などについても議論がかわされた。

ホテルでのグループ・ディスカッションの様子→

2-3. ３日目

2-3-1. グループ・ディスカッション

３日目、17:00 より予定されていたグループ・ディスカッションはプレナリー・セッションに変更となった。本プレナリー・セッションでは TUNZA Youth Advisory council の立候補と投票が行われた。Youth Advisory council は各地域（アジア・太平洋地域、北アメリカ、ラテンアメリカおよびカリビアン地域、ヨーロッパ、西アジアおよび中東、アフリカ、Indigenous Groups）からの選出であった。このうち、北アメリカ、ラテンアメリカおよびカリビアン地域、ヨーロッパ、西アジアおよび中東は、立候補者が選出人数を超えなかった。アジア・太平洋地域とアフリカは非常に立候補者が多かった。

立候補者が各々1 分いないでスピーチを行い、それに基づいて、各国 1 票ずつ投票権が与えられ、候補者に投票するという形式であった。

↑TUNZA Youth Advisory Council 立候補の様子

2-3-2. 全体での会議（"Bandung Outcome for Rio+20": 今回の会議の結果を Rio+20 にどのように生かすか）

本セッションでは、昨日に引き続き宣言文（Bandung Declaration）の修正のセッションとなった。昨夜のディスカッションを受けてアップデートされた、宣言文の修正案が出され、それに各国１セクションにつき３つまでコメントでき、加えて全体に関するコメントを３つ付け加えることができるとされた。日本からの子供の参加者なども交え、日本からもコメントを発表した。

↑宣言文の修正に向けたディスカッション（日本の参加者たちとともに）

具体的には、Green Economy に特化するだけではなくて、その中に生活する人間や、生活の質に眼を向けること、災害に対する備えや、災害を起こさないような工夫を自然との調和の中で目指すべきであるということ、草の根レベルでの活動などを踏まえ、その地域のモニターには若者が適する可能性があること、そして意思決定のプロセスの中に若者が、コアとして意見が反映されるべきであることなどを述べた。

2-4. ４日目

2-4-1. エクスカーション

エクスカーションでは、ユースの参加者は、①: Geothermal- Star Energy, Kamojang Garut 見学、②: 火山- Tangkuban Perahu、③ Hydro Power- Jatiluhur 見学の３つから選択できる仕組みになっていたが、筆者は②（Tangkuban Perahu 火山）を選択した。Tangkuban Perahu 火山はバンドンより 30km 離れた箇所にあり、標高 2,084 メートルにある。火山は、神話（彼自身の母と子の間の禁じられた愛の物語）の中にも登場しており、現地の人々の信仰の対象でもあるようであった。Tangkuban Perahu 火山の駐車場で、筆者も含めた我々は、植林を行なった（各国１本）。植林では、一緒に看板を立てることができ、木と共に名前を記した。

↑植林の様子（日本人参加者と共に）

←Tangkuban Perahu 火山

2-4-2. エクスカーション後のディスカッション（宣言文作成に向けて）

エクスカーションから帰着後、ホテルにて宣言文作成に向けたディスカッションが行われた。このディスカッションでは、宣言文のセクション（セクション 1-5）ごとに、小グループを形成して、詳しい内容についてディスカッションした。筆者は特にセクション 2 とセクション３に所属した。セクション２（”What We Are Going to Do”）では、より具体的な内容が加味され、得られた知識や経験を一部の（興味のある）人々の中だけで共有するのではなく、その地域のすべての人々と共有され、持続可能な生活を推進しなければならないということなどが加えられた。

↑セクション３に関する話し合いの様子

セクション３（”What Green Economy Means to Children and Youth”）では、Green Economy が人々の公平かつ公正に恩恵をもたらすこと、また、それらが人々の単なる経済活動としてだけではなく、人々の生活の質を高めるという観点からも資するものであることが話し合われ、内容が整理された。

２-5. ５日目

2-5-1. Sport Center での伝統ゲーム体験、Tamana Sari Street での壁画体験

当初は Cultural event としての側面が強かったようであるが、内容が変更された。本会議の会場（SABUGA）は周囲に公園や体育館、グラウンドのある一つの区画に存在していたが、会場近くの公園に、World City Forest という区画が名付けられ、植林を行なった。

植林に先立ち、廃材を用いて作った楽器の演奏などが行われ、Green Economy and sustainable Lifestyle を象徴する演出もなされた。

↑廃材を使った楽器類による演奏

↑筆者が植林した木

2-5-2.閉会式

閉会式は「第１回アジア・アフリカ会議博物館」で行われた。インドネシア政府、バイエル、UNEP など来賓の挨拶に続き、TUNZA2011 における宣言文(“Bandung Declaratioin”)の読み上げが参加者の手（ユースから１名、子供から１名）によって行われた。

その後、各地域を代表して、幾つかの国々が Cultural Presentation を行い、加えてインドネシアからのパフォーマンスもあった。その会場内では、様々な参加者が相互に交流試合、この閉会式は深夜まで続いた。

↑閉会式会場の様子

←各国参加者と共に

3. ワークショップ

ワークショップは 20 あるワークショップ8（うちユース向けの 7～9）の中から、参加者自身が 1 つを選ぶ方式であった。事前にオンライン登録ができたが、上手く情報が反映されておらず、現地でもう一度選びなおす形となった。

3-1. Workshop①（1 日目：15:30-18:30）

【タイトル】Building a movement for Rio+20 -Tools for online Community dialogues

【オーガナイザー】Aleksandra Nasteska, Marie- Pierre Daigle(We Canada Initiative)

筆者は、最初のワークショップに Rio+20 に向けた情報共有に関するワークショップに参加した。このワークショップでは Rio+20 に向けて、世界中に散らばったユースの活動をどのように一つのムーブメントとして形成するかについて、情報共有のツールを主に紹介しながらワークショップが進められた。

↑ワークショップ①の様子
（中央はオーガナイザー：Ms. Aleksandra Nasteska）

このワークショップを選択した一つの理由として、幾つかの機関のホームページ、Twitter、Facebook 上などで Rio+20 に向けた情報共有がある程度進んでいるものと推察されるが、アカウント名やホームページアドレスを知らないままでは、その情報のキャッチアップするのは難しいし、各国の情報共有の程度や、Rio+20 に向けた取り組みがどこまで進んでいるのか知りたいと考えたからであった。実際のワークショップでは、アイスブレイクなどに続き、Twitter 上での Rio+20 に向けたユースの情報共有アカウントが紹介された後、ユース自身が報を発信したい時に、どのように Twitter などのソーシャルメディアを使用するべきかといったことについて、実例を交えながら紹介された。

↑ワークショップ①の様子(2)

また、情報を発信したい時に、リアルタイムではないにしても重要なツールである、ホームページについても、興味を引いてみてもらうためのヒントなども、オーガナイザーの所属団体である「WeCanada」の例を元に紹介した。

オーガナイザー「We Canada」ホームページ→

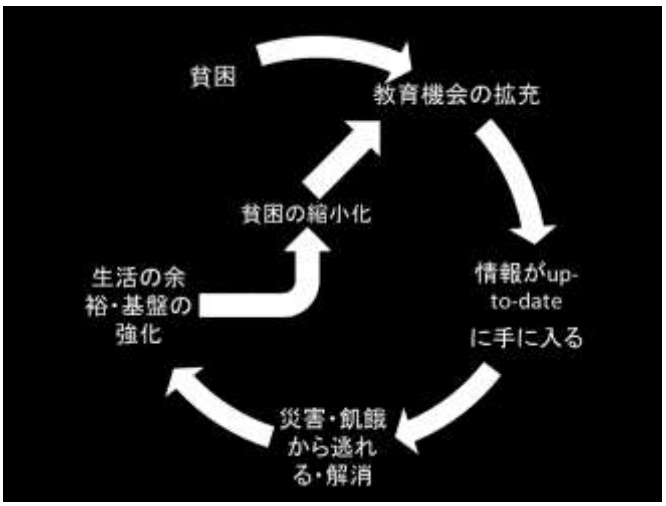
3-2. Workshop②（2 日目: 13:30-15:00）

【タイトル】Population and Sustainable Development -Building likages with human rights, gender and youth empowerment-

本ワークショップでは、人口増加と持続可能な開発を両立させると同時に、現在も深刻化しつつる人権や飢餓、貧困問題などについて幅広く討議するワークショップであった。特にアフリカの参加者などからは、飢餓や貧困によって教育が受けられないこと、適切な情報が提供されないことにより社会的不利益を被り、それによってさらに貧困から抜け出せないか、場合によっては貧困の度合いが更に深刻化するという、負の連鎖が続いていることが紹介された。我々参加者はこのような負の連鎖の中で、なぜ気候変動が貧困層あるいは社会的弱者にもっとも大きな影響を与えるかについて考えた。その中で、インフラ（ここでの意味は生活の基盤となる、基本的な社会的資源）の不足、情報にアクセスできないという問題、そして災害に備える余裕が日常生活にないこと、等が挙げられた。日本からは、特に３月に起きた東北地方太平洋沖地震を例に、「社会的弱者」とは、女性だけではなく、ハンディキャップをもった人々、高齢者なども含まれることを指摘し、より「社会的弱者」の概念を広げて考える必要があることを提案した。

↑ワークショップ②の様子

↑貧困の連鎖とは（筆者が議論から抽出）



↑貧困の連鎖解消の方策（筆者が議論から抽出）

2-3. Workshop③（2 日目: 15:30-17:00）

【タイトル】Best practices of environmental community projects

【オーガナイザー】Dirk Franzel, Matthew Billot(UNEP)

Environmental community projects という名前ではあったが、Rio+20 に向けたプロセスにおいて、反映させて欲しい若者の意見や活動などを互いに発表しあうという形式であった。この中で、Rio+20 の中で若者の意見は必ずしも、Main Stream として常に取り上げられているわけではないことが指摘され、もっと若者（ユース）の活動を、世界に幅広く知ってもらう必要があるとの指摘がされた。そこで、オンラインでの（若者に対する）アンケートや、インターネットコミュニケーションツールをもちいたオンライン会議、facebook や Twitter で、Rio+20 に向けたアプリケーションを開発してはどうかという提案がされた。同時に、ショート・フィルム・コンペなどの案も出され、ユースのエンパワーメントをどのように推進していくか、UNEP のオーガナイザーと直接対話する良い機会であった。

↑ワークショップ③の様子

2-4. Workshop④（3 日目：13:30-15:00）

【タイトル】The role of health and environment in youth participation

【オーガナイザー】Aina Bezhenar(WHO)

このワークショップでは主に２つの問題について話し合われた。１ つ目は、気候変動や環境問題が、我々の健康問題にどのように関連し、どのような問題を引き起こすのか。２つ目はその問題に対する解決策はどのようなものが考えられるのか、というものであった。これらの問題は、小グループで３グループに分かれて話し合われた。１つ目の問題については、紫外線の増加による悪性疾患の増加、また、目に見えない汚染として騒音や光の問題など、またそれに加えて水の汚染の問題が挙がり、水俣病が日本から学ぶべき事例として取り上げられた。これらに対して、環境問題と健康の問題がより近い距離でディスカッションされる必要性が参加者の中から意見として挙がり、特に若者世代にこれらの危険性に対して十分に教育されるべきであるとの結論に達した。環境問題は長期的視野から議論されることも多いが、健康問題については、よりクリティカルな問題であるとの意見が寄せられた。また２つ目の問題については、地域の人々が、その地域に存在する環境問題と（健康の見地から）守らなければならない・守られるべき自然にもっと眼を向けるべきであり、同時に経済活動についても、真の Green Economy は、そこで経済活動を行う人々の健康が前提としてアピールされなければならないとされた。これらの問題は、現在されている健康教育よりももっと早期から学校教育の中で取り入れられるべきであるとの意見があがった。このような分野においては、日本などの先進国がの経験が大いに役立つであろうとの指摘があった。TUNZA2011 には、幾人か医学生も参加しており、その学生たちは、このワークショップに好んで参加したようである。

↑ワークショップ④の様子

↑ワークショップ④の様子(2)

2-5. Workshop⑤（３日目: 15:30-17:00）

【タイトル】Creating practical environmental projects

【オーガナイザー】Wayne Talbot(Volvo adventure)

このワークショップは、これまでのそれと少しく変わっており、具体的トピックではなく、どのようにプロジェクトを立てるか、そしてプロジェクトを立てる際にはどのような部分に注意を要するかということを実践的に学ぶものであった。

まず小グループごとに、具体的にプロジェクトを立案するというもので、プロジェクトはどのような必要性があって行うのか、プロジェクトの効果はどのように判定できるか、プロジェクトに必要な期間とタイムスケジュールはどうか、プロジェクトを継続可能なものとするにはどのようにすべきか、あるいは地域活動でどのような支援が必要かなどを、step by step で立案した。各々の小グループは、Mr. Wayne に対してプロジェクトを「説得する」という一風変わった形式でプロジェクトを立案した。筆者の小グループでは、大学内のキャンパスで空き缶を（ポイ捨てされずに）集めるにはどのようにしたらよいかという問題提起に始まり、バスケットコート型の空き缶を投げ入れるゴミ箱を用意して（楽しみながら空き缶を回収できる工夫）、キャンパスごとに空き缶の収集量を競わせる、などの案を立案した。普段プロジェクトを立案する際に、自らでは気が付かなかったような視点・観点を改めて考える機会となり、また他の参加者にとっても、ボトムアップ形式で気候変動を考える良い機会となったようであった。

↑ワークショップ⑤の様子
（中央はオーガナイザー Mr. Wayne Talbot）

4. Plenary Sessions

4-1. プレナリー・セッション①(“Global Environmental Governance/ Sustainable Lifestyles”)

１回目のプレナリー・セッションでは、複数のパネリストによるパネルディスカッションであった。話題の焦点は大きく２つあり、環境問題と、エネルギーや Green Economy に関するものであった。環境問題については、環境教育の位置づけについてもディスカッションされ、たとえば、ゴミが川に捨てられているとして、それが海辺に住む生き物や水質の悪化につながること、そしてそれらを食べて育った（あるいはその環境の中で育った）魚たちを我々が食べることにより、我々が被害を受ける可能性があるということ（食物連鎖）がディスカッションされていた。これは、日本では当然の事のように受けとめられていることであるが、環境をいわば「点」として切り取るのではなく、全体のシステムの中で、あるいはそれに時系列を加えた形考える必要があるということを示した一例といえる。

Green economy に関するものでは、今後の人口増大にともなって、現在のような Demand Control のエネルギー供給はいずれ限界が来るであろうことが指摘され、とくに人口増加の著しいアジア・太平

洋地域では、今後若者が積極的に自らのエネルギー需要を減らす努力がよりいっそう大切になると述べられていた。セッション後に、パネリスト達と非公式に話す機会があったが、特に日本で３月に起きた地震とそれにともなう節電については関心を集めたようであり、「普段はなかなか実行に移せないが、それなりの日常生活レベルを維持しながらも節電が努力によって可能であること」を示した一例となった。

↑プレナリー・セッション①の様子

4-2. プレナリー・セッション②（“State of the Global Environment/ Forests and election of the TUNZA Youth Advisory Council”）

最初に、幾つかのユースの活動事例（主に植林に関連したものが多かった）が述べられ、そのプロジェクトが成功した理由や、逆に困難についてパネルディスカッション形式で話し合われた。プロジェクトの困難については、発展途上国では地元政府のガバナンスが十分でなく、適切な支援や許可を得ることが難しいこと、環境問題を学ぶ「授業」はあるものの、それらを体験したり、体を動かして勉強する場がないことが述べられた。成功した理由については、地域ぐるみで取り組みを行うことができたこと、すなわち実践を通して地域住民に、環境教育を行うことができ、結果としてアクターの数を増やすことができたということが成功の要因と述べていた。全体的に、ひとつの組織の中でユースの役割について論じられる場面は少ないように感じたが、ユースは、上の世代（社会人ー大人）と下の世代（小、中、高生）を結ぶ中間の世代として、地域を取りまとめる役割を担うことができると述べられていた。

↑プレナリー・セッション②の様子

4-3. プレナリー・セッション③（バンドン宣言文"Bandung Declaration"の作成）

本セッションでは、予定が変更され、TUNZA Youth Advisory Council の選挙が行われた。2-2-2.に引き続いて、投票の結果が紹介され、新しい TUNZA Youth Advisory Council が決定した。日本の属する Asia Pacific Region からは２名、Ms. Shruti Neelakantan（India）と Ms. Gracia Paramitha (Indonesia)が選出された。

↑新しい Youth Advisory Council のメンバーたち

←Ms. Shruti Neelakantan（India）と

5. その他

5-1. 会場までの移動

会場までの移動は、バスか、自転車で向かった。自転車は、Ecology を象徴する取り組みとして行われた。現地の空気を味わいながら会場に向かうのは、参加者としても貴重な経験であった。

↑ホテルから会場までの移動（自転車にて移動）

5-2. 植林の後の宣言文の修正会議

植林後、午前に一旦閉会式会場である「第 1 回アジア・アフリカ会議博物館」に移動し、再び宣言文の修正に関する全体セッションが行われた。ここでは宣言文の最終的な修正がされ、各セクションにつき 3 つまでの修正を受け入れる方針で、全体の合意形成が図られた。日本から提案が反映された部分は、特に削除の指摘を受けること無く、受け入れられた。この合意をもって、TUNZA2011 における宣言文(“Bandung Declaratioin”)が完成した。

5-3. 宣言文（Bandung Declaration）へのコミットメント

宣言文中では、幾つか日本の提案が反映された。ここでは、日本のコミットメントを紹介する。（ただし、他国の提案と統合されて宣言文中に反映されているため、筆者が提案した文言が完全に反映されているわけではない）。

TUNZA Indonesia

The Voice of Children and Youth for Rio+20

2011 Tunza International Children and Youth Conference
Bandung Declaration

Section 1: Rio+20 and the Promises to Our Generation

↑TUNZA2011 宣言文（Bandung Declaration 原版）

- すべてのレベルにおいて、同じ情報が共有されなければならないこと。
- 若者たちが、意思決定のプロセスに参加できるようにならなければならないこと。
- Green Economy は、単に経済的な利益だけではなく、人々の Well-being が反映され、その結果として人々の生活の質を向上させるものでなければならないこと。
- 健康は、Green Economy と同様に、人々の生活の基盤として重要であること。
- （地域の）環境に対する評価、監視に関して、草の根レベルから若者の参加を促すこと。
- 国際的な合意を、より実践的な若者の活動へ統合できるようにすること。

これ以外にもいくつか提案したが、残念ながら宣言文中には反映されていないものもある。

5-4. その他の人的交流

人的交流については、上述したとおりであるが、昨年筆者が参加した“ASEAN+3 Youth Environment Forum”にて会議に参加した、Mr. Young Sun Kim(Republic of Korea)とはRegional Discussion でも日中韓蒙グループの中で緊密にコミュニケーションをとった。また、同会議の参加者である、Mr. Wong Chan Kenneth、Mr. Jimkai Lim(Singapore)とは、帰路途中、経由地であるシンガポールで会うことができ、TUNZA2011 の結果について報告と共に、ディスカッションした（両者は今回の会議には出席していない）。加えて（全くの偶然であったが）、筆者が参加した 2006 年、2009 年の世界水フォーラムで家族ぐるみでコミュニケーションをとっていた Ms. Maritza Morales(Mexico)とも再開し、互いに各々の国で活動していることを確認した。

↑Ms. Maritza Morales(Mexico)と
（左から２番目、筆者となり）

6. 報告会開催予定（11 月 13 日現在）

日時：平成 23 年 11 月 20 日（日）
時間：13:30~15:00
会場：旭川ウェルビーイング・コンソーシアム　サテライトキャンパス　【HI・RO・BA】（旭川市４条通７丁目右 10 号　まちなか交流館 2F）
主催：旭川ウェルビーイング・コンソーシアム学生自主組織「はしっくす」、一般社団法人　環境パートナーシップ会議
報告：佐藤　裕基（旭川ウェルビーイング・コンソーシアム学生自主組織「はしっくす」）

報告会開催予告ポスター→

7. 最後に

“TUNZA”という会議は、私自身がはじめて参加した国際的な会議－2006 年の世界水フォーラム－から、度々話題に登った会議であり、いつかは自分も参加したいと思っていた会議であった。実際に参加してみると、一般的に“国際会議”といわれるものが、宣言文を作ることが目的化したり、あるいはかなり夢見がちな会議になることもある中で、この TUNZA は極めて上質な会議であると感じた。それはおそらく、会議に来る各国の参加者たちが、各々のフィールドや活動範囲を持ち、その中で絶えず自ら考え、そのアイディアを具現化・具体化しているからであると思う。それゆえ、この会議は実践的な(Practical)な部分をもちながら、一方で国際社会に、我々若者の声をどう伝えるかという枠組み的な話し合いも行われ、それらがまるで縦糸と横糸のように織り成すディスカッションによって、我々の考える”sustainable lifestyle”という一枚の布が完成するのである。

私自身は、元々環境分野－特に水環境の分野から、ユースの活動に参加しはじめ、高校から大学の年月をかけて取り組んできた。その期間の中で、環境活動から市民活動へ視線が広がり、地域づくり、さらに環境教育へ取組を広げてきた。しかし、時々、私は正しい方向で活動しているのか、疑問に思うこともあった。今回の TUNZA の会議では、世界の若者たちで、私たちと同じように、悩み、困難にぶつかりながらも活動している若者たちと多く話し合う機会があった。同時に、数年前から継続的に活動している若者たちとも触れ合う機会があり、ユースのエンパワーメントは着実に大きくなりつつあることを実感した。

丁度、2011 年は日本にとっても、環境問題、持続可能な開発について色々と考えさせられるタイミングであった。日本は、先進国として捉えられることが多いが、環境の面でも、これまで様々な経験をしてきた。その一方、日本が、国内的に大きな問題だと感じている事柄は、必ずしも世界中で大きな問題として取り上げられているわけではない。しかし、必ず日本から発信できる新しい概念や考え方、そして実践例あると思う。例えば、キャンドルナイトなどは、あまり日本では珍しいものではないが、世界的には非常に注目を浴びやすいし、その効果（象徴的、あるいは教育的意味も含めて）も大きい。今後日本の若者が、世界的なイニシアチブを取っていく上では、より一層の発信力が求められるし、そのためにはもっと多くの若者がアクターとして、この分野の活動に取り組んでもらいたいと考えている。

いくつかの発展途上国は、現在猛烈な勢いでその富を増しているが、その結果が果たして彼らの望んだような未来になるかどうかはわからない。その未来が、現在の社会が想像した形になっているかどうかは、我々若者が成長し、あるいは年老いた頃に明らかになるのかもしれない。我々若者は、「未来を担う」世代である。その未来をどう形作るか、それは我々若者と現代の社会とが一緒になって取り組まねばならない課題である。

最後に、本 TUNZA2011 の参加に際して、多大なるご協力を頂いた環境パートナーシップ会議、そしてインドネシア政府と国連環境計画に感謝を申し上げ、本報告書の締めくくりとさせていただきたい。

8. 添付資料　TUNZA2011 宣言文【Bandung Declaration】

The Voice of Children and Youth for Rio+20

2011 Tunza International Children and Youth Conference

Bandung Declaration

October 1, 2011

§ 1 We, the delegates to the 2011 Tunza International Children and Youth Conferencerepresenting 118 different countries, are united in calling upon world leaders tomove to a sustainable development pathway that safeguards the Earth and its people for our generation and generations to come. We urge governments torespond to and not ignore the demands of the children and youth.

Section 1: Rio+20 and the Promises to Our Generation

§ 2 Next year, our leaders will meet in Rio de Janeiro, Brazil, to critically assess and accelerate our progress towards sustainable development. The "Rio+20" gathering will mark a generation since the 1992 Earth Summit - the first effective global recognition of the environmental, social and economic costs of unrestrained development.

§ 3 While we were not at the Earth Summit in 1992, we know that it was transformative. As a result, sustainable development has become a critical component in the protection of the environment and the eradication of poverty. We have met the children and youth who stood there and called to the moral consciences of our leaders and citizens to act.

§ 4 We have also read of the promises made and that continue to be made to us, the inheriting generation, which remain unfulfilled. Our governments have promised to reduce poverty, stem environmental degradation and enhance equity. They have promised to combat climate change, ensure food security, provide clean drinking water and protect our planet's biodiversity. Businesses and multi-national corporations have pledged to respect the environment, green their production and compensate for their pollution.

§ 5 Yet, our planet's future - our future - is in peril. Our generation has seen the warning signs in Rio 1992 become the realities that face Rio+20: poverty, climate change, pollution and depleting natural resources are all symptoms of our unsustainable development patterns. We feel, understand and know that we cannot wait another generation, until a Rio+40, before we act.

Section 2: What We Are Going to Do

§ 6 We are the next generation of decision-makers and we stand for action and change. Therefore, we pledge the following commitments to make the Rio+20 Earth Summit a milestone for change.

§7 1. Lobby our governments to make Rio+20 Earth Summit a top priority. We will identify our governments' positions, listen to their commitments and hold them accountable to us. We will demand that our governments, leaders of the private sector and civil society groups attend the Summit and make ambitious commitments now. We will call upon governments to formulate and implement sustainable development policies, which also address poverty eradication and are supported by strong enforcement mechanisms.

§8 2. Adopt more sustainable lifestyles and educate our local communities, including indigenous communities, sharing knowledge at the same level. All action starts with the individual and we are committed to reducing our personal ecological footprint. We will teach and encourage each other to be responsible consumers using all available tools. Yet, many young people remain unaware of basic environmental issues because of inadequate schooling. We will demand that environmental education and awareness raising be mandatory in each of our schools' curriculum.

§9 3. Work toward sustainable development through a green economy transition. We know that young entrepreneurs are now developing the new approaches needed for this transition and we will support each other as our generation develops sustainable technologies and processes. We will ask educational institutions to invest in these activities. We will urge governments and civil society to support young entrepreneurs and innovators that work towards sustainable development. We will support businesses that are environmentally responsible. We will lobby governments to pass laws and to put in place higher taxes on products that don't conform to this. We will continue to realize our vision of a sustainable world.

§10 4. Contribute to local, national, regional and global discussions on sustainable development. We will demand to ensure children and youth participation in all decision-making processes at all levels. We will support institutions that balance development and the preservation of resources for future generations, and oppose any government or corporation that violates this principle. We will use every opportunity to convey our message to push Rio+20 leaders to take tangible action at the end of the conference. We will encourage that concrete actions be taken to conserve the environment such as the World City Forest initiated at the TUNZA International Children and Youth Conference 2011.

Section 3: What Green Economy Means to Children and Youth

§11 We believe a green economy values human well-being, social equity, economic growth and environmental protection on an equal basis. It is an integrated framework for sustainability that meets the needs of the present while providing for future generations.

§12 Nearly half of the world' s population is under the age of 25 and most live in developing countries. It is crucial to invest in education, employment and empowerment of children and youth in the green economy. This will both enable them to live productive and worthwhile lives while contributing to a just green economy transition. We agree with the United Nations Secretary-General: failing to invest in children and youth is a false economy.

§13 Every region, country and community will have its own unique green economy. Yet, we urge the Rio+20 Earth Summit to agree that all green economies should:

o Endeavour to enrich the well-being and dignity of all people, both economically and in terms of quality of life;

o Protect and value natural resources and ecosystems, on which all life depends, and recognize the traditional knowledge and practices of indigenous peoples and local communities;

o Invest in education and social entrepreneurship which engenders sustainable development values;

o Promote good governance, accountability and corporate social responsibility; and

o Engage citizens to protect the environment in their everyday lives.

Section 4: Governments and Corporations Need to Come to Rio and Deliver

§14 We cannot wait any longer: we must act now to move swiftly and decisively on a green economy path toward sustainable development. While recognizing that each nation must chart its own way, we call upon world leaders to come to Rio to collectively reinvest political will in:

o Developing national green economy transition plans and agendas for action;

o Enhancing cooperation and coordination among developing, emerging and developed countries;

o Implementing socially responsible governance at local, national, regional and international levels, including ending all forms of corruption;

o Meeting all Millennium Development Goals by 2020 with tangible, measurable achievements;

o Protecting human rights and the development needs of young people, particularly access to education and employment in the green economy;

o Increasing the engagement of children in the development and ensuring children and youth participation at all levels of sustainable development governance, including monitoring and evaluation;

o Ensuring access to health services including sexual and reproductive health empowerment of young girls and women in sustainable development

strategies;
o Responsibly phasing out subsidies that are harmful to the environment;
o Protecting the rights of citizen activists;
o Incorporating environmental and social considerations in economic policy formation and adopt alternative measures of development to gross domestic product; and
o Lobbying media institutions to pay more attention to environmental reports.

§ 15 We call upon business leaders to collectively commit to:
o Implementing effective corporate social and environmental responsibility through a new economic model that ensures sustainable resource use;
o Being accountable for the sustainability of their supply chain and production patterns;
o Providing training, education and funding support for children and youth and communities to work toward a green economy;
o Increasing investment in environmentally-beneficial scientific research and development; and
o Raising community awareness of the damages of unsustainable business practices.

Section 5: What Governance Means to Children and Youth
§ 16 We know firsthand that the adoption of international Plans of Action at the 1992 Earth Summit, such as Agenda 21, did not automatically result in real change where it matters – in countries, corporations, campuses and communities. In fact, weak implementation, corruption and the lack of transparency and accountability have hindered much-needed progress towards a sustainable future. We know there are already hundreds of international agreements to protect the environment, but many do not deliver on the ground.

§ 17 At the Rio+20 Earth Summit, we need to analyze the strengths and weaknesses of the established international institutions and assess new institutional structures that guide us toward a sustainable green and fair economy. We believe such structures should:
o Strive always for peace and cooperation among people from all nations;
o Focus on implementation of existing international agreements and plans of action;
o Hold governments at all levels, corporations and civil society organizations accountable to their promises and obligations on sustainable development;
o Strengthen and ensure effective children and youth participation within the United Nations system;
o Further the implementation of the precautionary principle and demand reparations of damages, such as applied to new technologies and practices; and
o Adopt ambitious Sustainable Development Goals and hold all governments

accountable for their achievement.

§18 We also know that it does not stop there. We must support national and local governance reform as well. We believe that good governance at the country, state, province and city levels should:

o Secure public access to information and environmental justice;

o Meaningfully engage all stakeholders in the decision-making process, considering the views and opinions of minorities, underprivileged, illiterate, and unemployed young people;

o Fight corruption wherever it exists; and

o Protect and defend the rights of young and future generations.

§19 This is our declaration to fight for environmental justice not only for us but for all generations to come.